

「三角形と角のひみつをさぐろう」

1 提案の主張点

(1) 単元構成の工夫

「三角形」と「角の大きさ」の学習は密接な関わりを持つので、関連させながら指導することで意識の継続が図られ理解を深めることができると考え、1つの単元として構成した。さらに、分度器を使う技能の習熟を高めるために2時間のゆとりを加え、全18時間の単元計画を立てた。

(2) 少人数指導の指導形態の選択

学習内容によって、等質、習熟度別、課題別の指導形態を取った。習熟度別に分ける前に自己診断テストを実施しコースを選択させた。また、途中でのコース変更も認めた。

指導形態	選択理由
等質	人数が最少で効果的である。
習熟度別	個人差が大きい内容である。
課題別	測りたい物によって選択する。

(3) 算数的活動を重視した教材・教具の工夫

- 角の概念の定着や量感を育てる視覚に訴える教具
- 技能習熟を図るメダル作り、模様作り、インターネット算数フラッシュサイト
- 思考を深める全円分度器、角の部屋、美しさを味わう模様作り

2 提案に対する意見

- 三角形の指導と辺についての理解度は？
ストローを使って三角形の指導をした。コンパスの指導は、作図を先にして三角形の弁別を後ですると効果的でよく理解できていた。
- 模様作りで三角形の敷き詰めを指導したか。
好きな形を作ったため形づくりに目がいき、敷き詰めるという意識が弱かった。

- 180°以上の角の定着を図る指導法は？
教具を使って視覚に訴える。直角幾つ分と予想させ量感を育てる。
- 分度器の2つの目盛りの読み方の指導法は？
どちらからも測れるように時間を取って指導した。同時に2つの角ができるので、必ず角の印をかくように指導した。
- 少人数指導での毎時の評価は？
途中経過の把握は打ち合わせの時にした。

3 御指導

- 既習事項の定着が重要なので繰り返し思い出させることが必要である。個のつまずきに対応した指導計画になっている。小単元に分けておくと分かりやすい。
- 教材教具は、個人用か教師用か鏝分けて使うことが大切である。
- 少人数指導は実態と学習内容に応じて決めており成果があった。自己診断テストは結果だけでなく過程もチェックする必要がある。
- 中学校の学習に発展する内容は、個に応じて指導する。全員にする必要はない。
- 基礎基本の定着を図る単元構成である。教師の願いと子の実態が一致したため2単元を1つにして成功した。定着させたいことを明確にしておかないと分からない単元が続くことになる。定着させるための繰り返しと細かなステップが工夫されている。算数を楽しく、よさ(美しさ)を感じながら学習できている。
- 少人数指導では、学力形成時においては到達度別指導が効果的という結果が出ている。
- 効果的な教材・教具は、個のつまずきの分析、予測があって生まれるもの。うまく活用して思考を深める算数的活動が展開されていた。